

# コーチング解体新書

～やる気を引き出す源泉を探る～

その60 上司として、あなたは部下に  
どんな影響を残している？



猪俣 恭子  
中央大学文学部卒  
卒業後足利銀行に7年間勤務。窓口業務を経て、人事部研修グループで行内研修の企画・運営および講師を担当。退職後は家業の印刷会社に従事。2004年からはコーチングを用いた社内の人材育成を手掛け、「良質なコミュニケーションが実現されている現場こそがビジネスの成功をうむ」と実感し、2006年 Coaching Press 株式会社を設立、代表取締役として現在に至る。  
国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ  
財生涯学習開発財団認定マスターコーチ  
コーチエィCTPクラスコーチ  
米国CCE,Inc.認定 GCDF-Japanキャリアカウンセラー

仕事始めの夜、そのメールは突然訪れました。見覚えのある企業さんからでしたが、差出人の方の名前には覚えがありません。「コーチング研修で弊社のAがお世話になりました。」とあります。確かにAさんには年賀状をだしましたが、代わりの方がこうしてお返事をくださるといことは、もしかしたらAさんは退職されたのかもしれない。一瞬そう思いました。しかし、メールにはAさんが昨年の秋頃に病で亡くなった…とあるではないですか。えっ！ まだ50歳ちょっとだったと思うけど！

コーチング研修に参加されていたときのAさんは、「前々から、こういう研修に参加したかったんです。」と嬉しそうに生き活きと語っていました。「上司の役割は部下を守ること。私は何があっても部下を守っていくんです。」熱く情熱的に、繰り返し繰り返し語っていらっしゃいました。とても頼もしく、研修が終わって帰られるAさんの大きな背中を心強く見送ったものでした。それから数ヶ月のちのフォロー研修で久しぶりに会ったAさんの様子は、なんだか変でした。くたびれているよううつむき加減で、明らかに元気がありません。どうしたんだろう？ 仕事で上手いかわないことがあるのか、それとも部下との関係で何か心に痛みを感じるがあったのか、もしくは他に気がかりがあるのか…？ 「お元気ですか？」たまらず声をかけた私に促されて、会社の様子を語るAさんの声は、以前とはうってかわってしんみりしたものでした。

そんなAさんが気になって、年末にお勤め先まで年賀状をだしたのでした。どんなメッセージを書きとめたのだろうか？ またお会いできる日を楽しみにしています、そんな言葉で締めくくったのかもしれない。そのAさんが亡くなった…！

メールをくださった方は、こんなことも教えてくれました。Aさんとはコーチング研修のことをよく話題にし、お互い話していたこと。Aさんの机には、研修で書いたと思われるカードが置いてあったこと。そこには、

どんな上司（リーダー）になりたいか、  
そのためにこれから始めること、

変えること、  
やめること、  
それらがAさんの「字」でしっかりと書きとめられていたこと。その方は具体的にどんな内容が書かれていたのかも教えてくれました。

ああ、あのカード。確かに研修の最後の場面で参加者一人ひとりに配りました。Aさんは自分の机の目に見えるところに大切に置いていてくれたんだ。

メールはさらに続きます。そのカードは今は自分が持っていること、Aさんほどの人は二度といないという無念さ、だからこそAさんがやろうとしていた「思い」を今度は残った自分たちが育てていく、という覚悟にも近いメッセージが綴られていました。

わざわざお返事をくださったその方に心から感謝をし、Aさんのご冥福を祈りつつ、静かにメールをとじました。

Aさんの「思い」を今度は残った自分たちが育てていく…か。これが真実なんだろうとつくづく思いました。組織において、部下は上司からの影響を大きく受けています。「こんな上司にはなりたくない」と思われているのか、それとも「自分もこんな上司になりたい」と思われているのか。「この上司とは一緒に働きたくない」と思われているのか、それとも「この上司と一緒に働けてよかった」と思われているのか。どちらにしても、上司が残した影響がそのまま次の世代にも受け継がれて、社風となっていくのでしょうか。

世論調査で有名な米国のギャラップ社はこのような調査結果をだしています。世界中で「3分の2以上の人が毎日仕事が終わるのを待ち望んでいる」、一番楽しくないのは「上司と一緒にいる時間である」と。その一方で上司から一人の人間として気遣われていると感じている人たちは、「職場で業績をあげ、質の高い仕事をし、体調も悪くなりやすく、怪我をしない」という傾向があるとの興味深いデータもあります。

あなたは部下にどのような影響を残しているのでしょうか。そう振り返った時から、あなたの目の前の部下の「やる気」が引き出される物語が始まります。



コーチングプレス株式会社

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所6-17-17-310 電話 048-863-8914 FAX 020-4665-3162  
<http://www.coaching-press.com/> (「コーチング解体新書」バックナンバーも掲載中!!)